



平山郁夫
彩美版®
限定
300部

パキスタン高原を 行く

シルクロードの路

— 生命の根源からの導き — シルクロード



S125

シルクロードのキャラバンに託す
平和への祈り 「**絲綢の路 パミール高原を行く**」

「中国からウズベキスタンやアフガニスタン、パキスタンへと国境を越えて行くあたりは四千メートル級の山々が連なる。酸素が薄く、息をふうふうしながら歩いた。だがそのぶん歩き終えた気持ちは清々しく、それなりの達成感も得られる。《大唐西域壁画》を描き終えた私は、程度こそあれ、そのような気持ちだった。やり終えた達成感と、新たな目標に向かって歩き始めるのだという清新な気持ちの両方を込めた。」(平山郁夫)





公益財団法人 平山郁夫美術館

平山郁夫美術館は、平山郁夫の生地・広島県生口島にあり、幼少期の作品からシルクロードや日本の美を描いた代表作までを展示しています。

住所 広島県尾道市瀬戸田町沢200-2
電話 0845-27-3800 FAX 0845-27-3801
開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 原則無休

*詳しくはお問い合わせ下さい。



公益財団法人 平山郁夫シルクロード美術館

公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館はシルクロードの文化と歴史の顕彰に努めた平山郁夫画伯の絵画と、シルクロードの文化と歴史に関する美術品の展示をしています。

住所 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6
電話 0551-32-0225 FAX 0551-32-0226
開館時間 10:00 ~ 17:00 (入館16:30まで)
休館日 展示替え期間、冬季(年末~3月中旬)

*詳しい日程はお問い合わせ下さい。(2016年3月より、火曜定休がなくなりしました)

発行 TOMOWEL 共同印刷株式会社
本体価格 300,000円
(消費税等は別途申し受けます)

美術趣味 【美術をもっと楽しむためのウェブサイト】
<https://bijutsu-shumi.com>

- 肩書き等は初版発行当時のものです。
- 寸法・重量等は、天然材料を使用し、一点一点手作りのため、表記と異なる場合があります。
- 作品の色彩等、カタログと現品で多少異なる場合がありますが、ご了承願います。
- 本カタログ掲載写真・文章等の無断転写、複製、転載およびインターネットでの無断使用を禁じます。

仕様体裁	
■ 限定	300部
■ 技法	彩美版®シルクスクリーン手刷り
■ 用紙	版画用紙
■ 額縁	特製木製額縁金泥仕上げ、アクリル付き、クロス貼りタテウ入り
■ 画面寸法	天地34.1×左右72.7cm
■ 額寸法	天地54.5×左右93.0×厚さ5.5cm
■ 重量	約5.7kg
■ 監修	公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
■ 解説	谷岡清(美術評論家/NPO法人美術教育支援協会理事長)
■ 原画所蔵	公益財団法人平山郁夫美術館
■ 証明	著作権者の承認印・限定番号入り証紙を額裏に貼付け

平山郁夫画伯は、1968年(昭和43年)に初めて現地を訪れて以降、150回以上にわたり取材のためシルクロードへと足を運んだ平山郁夫画伯。集大成ともいえる『大唐西域壁画』を2000年12月31日という一つの時代の終わりに描き終えた翌年の2001年9月、第86回院展に出品したのが本作「絲綢の路 パミール高原を行く」です。

41年間にわたったシルクロードの取材では、時に道なき道を行き、荒々しい山を越え、その厳しい旅は修行のようであったといえます。平山画伯は日本文化の原点となる仏教を運んだシルクロードを描くことを通して「日本人の精神文化とは何か」、ひいては自身が「なぜ生まれ、なぜ生かされていくのか」を問いつけました。同時に平和が保たれることによつて東西交易が可能となることから、「シルクロードを人々が辿っていること自体が

平和の象徴」と語り、仏教を伝えた玄奘三蔵が歩んだシルクロードを平和への祈りを込めて描きました。「絲綢の路 パミール高原を行く」では、険しい山道を行く駱駝に乗った二行が描かれています。一歩一歩踏みしめるように進む後姿からは、厳しい道のりが感じられる一方、背景の青い空と白い山、乾いた土の様子は、思いのほか全体の印象を明るく感じさせ、未来に向かって歩みゆく前向きな気持ちや希望が垣間見えるような気がします。「人間を真にみつめ、命の営みの確かな形を描きたい」——目の前の道を確かに歩む人々の命に対する慈しみや平和への祈りが、シルクロードを行くキャラバンにのせ観る者の心に深く響く本作は、平山画伯の深い精神性に触れるとともに、先の見通しにくい現代に生きる私たちを力強く勇気づける一枚です。

作品解説 激動の歴史を 刻んだ記念的作品

平成十三年の院展に出品された「絲綢の路 パミール高原を行く」(「絲綢」は中国語の絹)は、平山郁夫画伯にとっても忘れることの出来ない記念的作品となった。この前の年、二〇〇〇年十二月三十日、平山画伯が最後の筆を入れ、奈良薬師寺玄奘三蔵院画殿の「大唐西域壁画」が完成、奉納された。画伯が生涯をかけて追った玄奘三蔵のシルクロードの足跡を、七つのテーマにまとめた大壁画で、平山芸術の集大成とも言っても過言ではない。(中略)

中国からアフガニスタン方面へ抜けるシルクロードの秘境パミール高原、標高数千メートルを超える岩ばかりの険しい山道、白銀の高嶺に踏み入る駱駝の一行、二〇年の歳月をかけ、ようやく薬師寺の大壁画を完成、ふと振り返れば、今通つて来たのは岩また岩の苦難の道——そんな画伯の深い感慨が込められているに違いない。この絵に添えられた画家の言葉「……やり終えた達成感と、新たな目標に向かって歩き始めるのだという清新な気持ちの両方を込めた」を見ても、その心意気が伝わってくる。画伯にとっても重要な作品であったのだ。(付属解説書より抜粋)

平山郁夫画伯 ● 略年譜

- 1930年 広島県豊田郡瀬戸田町(現尾道市瀬戸田町)に生まれる。
- 1952年 東京美術学校日本画科卒業。前田香邨に師事。
- 1953年 再興第38回院展に「家路」を出品し初入選する。
- 1961年 日本美術院同人に推挙される。
- 1968年 初めてアフガニスタン、中央アジアを取材。シルクロードと仏教の取材は以後毎年のように行われ150回以上となる。
- 1987年 再興第63回院展出品の「画院青邨先生遺稿図」で内閣総理大臣賞を受賞。
- 1988年 ユネスコ親善大使に任命される。
- 1988年 東京藝術大学長となる。
- 1989年 フランス政府より芸術文化勲章コマンドー勲章を授与される。
- 1991年 文化功労者として顕彰される。
- 1993年 日本美術院理事長に就任。
- 1996年 日本美術院理事となる。
- 1997年 来日中のシラク・フランス大統領よりレジオンドヌール勲章を授与される。
- 1998年 広島県尾道市瀬戸田町に平山郁夫美術館が開館。
- 1998年 文化勲章を受章。
- 1999年 日本人として初めてジェームズ・スミソン賞(米国スミソン協会)を受賞。
- 2000年 薬師寺玄奘三蔵院「大唐西域壁画」完成。「絲綢の路パミール高原を行く」を制作。
- 2001年 東京藝術大学長に再任。(2005年退任)
- 2001年 山梨県北杜市長坂町に平山郁夫シルクロード美術館が開館。
- 2007年 喜寿を記念し、回顧展「平山郁夫 祈りの旅路」展が開催される。
- 2008年 北京・国立中国美術館で「平山郁夫芸術展」(パリ・三越エトワールで「平山郁夫シルクロード展」)が開催される。
- 2009年 12月2日、逝去。享年79歳。